

木ノ下城(別名無)(市史跡)(犬山市犬山字愛宕)(愛宕神社)

木ノ下城(きのしたじょう)は、尾張国丹羽郡(現愛知県犬山市)にあった日本の城である。

城の規模は、南北 200m、東西 200m ほどの正方形であり、南方に二曲輪、三曲輪が構えられ、東側と北側に堀があったという。

沿革

1469 年(文明元年)、越前国・尾張国の守護斯波義敏の命により、織田広近(尾張国上四郡守護代の織田敏広の弟)は小口城から犬山に移り、木ノ下城を築城し、城主となる。美濃国の斎藤妙椿に対する牽制の役割があったという。織田広近は犬山の乾山には戦い用の砦を築いている。

1537 年(天文 6 年)、織田信康は乾山の砦に城郭を造営し、犬山城として整備する。木ノ下城は廃城され、織田信康は犬山城に拠点を移す。

1564 年(永禄 7 年)、織田信長が犬山城に籠もる織田信清を攻める際、かつての木ノ下城址に宿営し、犬山城攻めの拠点とする(武功夜話による)。

1606 年(慶長 11 年)、木ノ下城址に愛宕山長泉寺延命院が建立される。延命院は明治初期の廃仏毀釈、神仏分離のため廃止され、延命院の中にあった愛宕神社になる。

1979 年(昭和 54 年)、城跡が犬山市指定史跡となる^[1]。

所在地

- 愛知県犬山市犬山字愛宕
 - 犬山市役所の西、愛宕神社

現在

- 犬山市役所の西にある愛宕神社の境内が木ノ下城の一部という。石碑と案内板がある。
- 愛宕神社の本殿が建つ高台が、木ノ下城の主殿跡といわれている。
- 境内にある井戸は、「金明水」と呼ばれ、木ノ下城の時代に掘られた井戸と伝えられる。また、愛宕神社の南西約 100m にある井戸、「銀明水」も当時に掘られた井戸と伝えられる。

Wikipedia による



愛宕神社



金明水

